



e q u a l

イ コ ー ル

2020.10 第53号

福山市男女共同参画センターの愛称は「イコールふくやま」です。イコールとは「男女平等」を表しています。

福山市男女共同参画センターは移転しました！



【主な内容】

- ★ 福山市男女共同参画センター（イコールふくやま）移転オープン
- ★ 知っとる？男女共同参画週間
- ★ 福山市男女共同参画週間記念インタビュー（金子恵美さん）
- ★ 男女共同参画推進員に聞く
- ★ イコールふくやま相談室から



福山市男女共同参画センターは移転しました！

福山市男女共同参画センターはエフピコRiM閉館に伴い、2020年（令和2年）9月7日に、草戸町五丁目12番3号（旧勤労青少年センター別館）へ移転オープンしました。

これまでと同様、「一人ひとりが尊重され、個性と能力を生かせるまち」、男女共同参画社会を実現するため、各種講座・セミナーの開催、相談、情報提供など、様々な事業を行ってまいりますのでよろしくお願い致します。
※ 貸館は行っていません。

相談事業

相談無料
秘密厳守

- * 平日相談（午前10時～午後5時） ※予約が必要です
- * 土・日相談（午後1時～午後5時）
- 受付時間 午前10時～午後5時（土・日・祝・年末年始を除く）
- 相談専用電話番号 084-973-8896

※ 詳しくはP6をご覧ください。

（DVなどの相談）

配偶者・恋人などからの暴力、夫婦関係、離婚などについて、悩みや不安がある。

（性別による差別の問題）

性別による差別によって、人権が侵害されたと感じている。

（公的制度等に関する疑問）

問題解決のための具体策や、福祉サービス等に関して知りたい。

そんなときは、
イコールふくやま
にご相談ください。

イコールふくやまでは、さまざまな問題に関するご相談をお受けしています。

学習事業

あらゆる分野に男女がともに参画し、いきいきと生活できる社会を実現するために、様々な講座やセミナーを実施しています。

「SNSから見えてくる現代的課題」「コミュニケーション術」「コロナの中で増加するDV・虐待の現状」など、これからも男女共同参画を推進する講座、女性の地位向上・エンパワメントを高める講座など企画していく予定です。

※ 状況により中止または変更の可能性があります。

これから予定している講座

イコール講座11月講座

1. 「腸から免疫力アップの習慣～腸活～」

日時：11月20日（金）

講師：うえはら美穂さん

2. 「パパと子どものふれあい体操」

日時：11月21日（土）

講師：苅部美千代さん

交流事業

グループや個人の活動を支援します。
ネットワークづくりもできます。
男女共同参画社会づくりの輪を広げましょう。



情報提供

2階の談話コーナーで、男女共同参画関連図書をはじめ、行政・統計資料の閲覧ができます。また図書及びビデオの貸出しも行っていきます。
市内外のイベントやお知らせのチラシ等も設置していますので、お気軽にご利用ください。



女性人材リスト登録者募集！

女性が活躍する場の確保と男女共同参画社会の実現をめざすことを目的とし、政策及び方針決定過程への参画をはじめ社会のあらゆる分野への女性の登用を促進するため、さまざまな分野にわたる人材を募集しています。

登録対象者 *20歳以上の女性で次の該当者

- (1) 市内に在住、在勤又は市内の団体に所属して活動している者
- (2) 市政に関心があり、地域の発展に熱意を持って貢献できる者及び市の審議会等の委員として活動する意欲がある者

- (3) 次のいずれかの分野に関心のある者又は専門的知識若しくは活動実績のある者
 - ア 人権、男女共同参画、地域安全、災害救援、消費生活
 - イ 環境保全（景観・自然・環境）、土木・建築
 - ウ 子育て、高齢者福祉・介護、障がい福祉、健康・保健・医療、食育
 - エ 教育、スポーツ、文化・芸術、情報・通信、国際交流・多文化共生
 - オ 農林水産業、商工業、労働
 - カ まちづくり、観光、法律・行政
 - キ その他市長が必要と認めるもの

「人材育成セミナー」 開講中！

福山市では、様々な分野への女性の積極的な参画、女性の能力開発や人材育成など、男女の区別なく一人の人間としていきいきと生活し、お互いに尊重し助け合う男女共同参画社会の実現の為にリーダーとして活躍していただく男女共同参画推進員の養成講座「人材育成セミナー」を実施しています。

2020年度（令和2年度）は全ての市民の方を対象に、男女共同参画の基礎を学ぶ「基礎講座」を開催しています。

2021年度（令和3年度）は出前講座を作成する「推進員養成講座」を開催予定です。

男女共同参画推進員になるまで

人材育成セミナー「男女共同参画基礎講座」（隔年開催）を受講し修了する。



人材育成セミナー「男女共同参画推進員養成講座」（隔年開催）で出前講座を作成。



男女共同参画推進員として、企業や地域等へ講師として出向き、出前講座を実施する。

知っとる？男女共同参画週間

男女共同参画週間は、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることをめざして、男女共同参画推進本部により「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日の1999年(平成11年)6月23日を踏まえ、毎年6月23日から6月29日までの1週間とされ、男女共同参画社会形成の促進を図る行事が全国各地で実施されます。福山市でも、毎年、週間に合わせて記念行事等を行っています。

2020年度(令和2年度)男女共同参画週間キャッチフレーズ

“そっか。いい人生は、いい時間の使い方なんだ。”
“ワクワク・ライフ・バランス”



2020年度(令和2年度)男女共同参画週間ポスター

男女共同参画週間記念インタビュー 元衆議院議員 金子 恵美さん

○講師プロフィール

金子 恵美(元衆議院議員)

新潟放送勤務を経て、2003年にミス日本関東代表に選出。

村長だった父の意思を継ぎ、2007年新潟市議会議員選挙に立候補。

同年に当選。新潟県議会議員を経験後、2012年に衆議院議員へ。

2016年には、総務大臣政務官に就任し、IT行政、放送行政、郵政行政を担当。(主な政策テーマ:福祉、IT、地方創生、子育て支援、女性活躍)

10年間の議員生活を経て、現在は企業顧問とテレビコメンテーターなどを中心に活動中。



Q. 今年度の「男女共同参画週間」のキャッチフレーズに関連し、金子さんが「自分らしい人生」を送るために、意識していることや大切にされていることはどんなことですか？また、金子さんが「自分らしい」と感じる時はどんな時ですか？

A. 私にとっての「自分らしい人生」とは、自己実現(気持ちの充実)と社会貢献を両立させることだと考えます。これは、言い換えれば自尊心と欲望を満たすことに加え、社会との接点を持ち続けることを大事にしているということです。社会貢献とは、例えばボランティアでもいいですし、何かの啓発活動などでも、とにかく社会のために自分ができることをやっていきたいという思いは、物心ついた頃から持っていました。ただ私は子育ても広義の社会貢献だと思っています。将来の国を担っていくのは間違いなく今の子ども達であり、その子ども達がしっかり成長していくことが国の将来につながるのだから、子育ては社会への貢献だと言えます。子育てというのは、自分自身の気持ちを充実させてくれるものでもありますし、それと同時に社会貢献でもあるので、私は今子育てに自分の全てを捧げているのかもしれないですね。実際に、仕事をしながら子育てをしているときに1番自分らしいと感じますし、そのどちらかだけになってしまうのは私にとって「自分らしい人生」ではありません。今は、既に仕事とプライベートの二兎を追って、二兎を得る時代になってきていると思います。仕事をしているからこそ、働く姿を子どもに見せられると思いますし、それと同時に家族の大切さも今回のコロナウイルスによる自粛期間に感じた方は多いのではないのでしょうか。QOL(クオリティ・オブ・ライフ)＝人生の質を意識して、母親としての自分の役割を持つとともに、一人の人間としてのやりたいことも実現させるという意識を持つことを私は大切にしています。

Q. 社会貢献というと、特に金子さんは、2019年に政界を引退されるまで、日本社会のためにご尽力くださいました。政界へいこうと思ったきっかけや、また最終的に国会議員になられた思いなど教えてください。

A. 政界をめざしたのは、父の影響が大きいですが、市議会議員から段階を経て国会議員になったのは、地域の選挙区事情がありました。そのような巡り合わせだったのです。私は新潟で育ったということもあって、地方をもっと豊かにしたいという信念を持って政治家になりました。ですが、実際に市議会議員になってみてわかったことは、地方を豊かにするためには地域の実情にあった施策が必要であり、そのためには地方分権をより強力に推進しなければならず、地方と国の在り方、政治・行政の仕組みを根本的に変えなければならないということでした。地方でできることには限界があり、国で統治機構を変える必要があると考え国政をめざしました。

Q. まだまだ女性参画率が低い議員としての活動の中では、苦しいことが沢山あったと思います。どんな苦しいことがあったか、またそれを乗り越えることができたのはなぜか、金子さんの信念なども併せて教えてください。

A. 政治の世界は圧倒的な男性社会で、他の政治家の方から女、子どもの問題を政治に持ち込むなと言われた時は、女性議員としてここまでやってきた自分を否定された気がして正直悔しかったですね。他には支持者の方からも、金子さんが男だったらもう少し相談したいのにな、と言われたこともあり、その時も辛かったですね。その方の真意は、本当は盃を酌み交わしながら相談したかったりするのだけれど、私が女性だからそういう付き合いに呼びにくいというその方なりの配慮があってだったのですが、やはり女性であることが障壁になってしまっていることを痛感した時は苦しかったです。他の女性議員たちも、それぞれ苦悩していることもあったと思います。ただ政治は数がものをいう世界なので、女性議員が強くなるには同じ意見を持った女性議員の仲間を作るしかないんです。なので次の世代の女性議員のためにも自分がここで辞めずに踏みとどまらなければと思って、その苦しかった時期は乗り越えましたね。

Q. まさに「活躍する女性」として輝かれる金子さんですが、「女性の活躍」が注目されている現在、女性が活躍していくために社会や家族・地域などの周りの人たちに求められることは、何だと思われますか？

A. 女性の方は、妊娠中、出産がある、育児があるなど、置かれている状況は様々であると思います。そういう様々な状況に対して、多様なキャリアプラン、ライフプランへの理解をしていくのがこれから社会に求められることであり、それと同時に女性自身にも、自分の境遇を理由に目標を諦めない意識が必要とされます。男女共同参画でも言われている指導的立場の女性の数を増やしていくためには、女性自身も自分が活躍していく覚悟を持たないといけないと思います。今は女性も活躍のできるポストに就くことができたりと活躍できる機会は増えています。だからこそ、チャンスを与えられたら、貪欲に自分が指導的立場にならなければいけないという意識を持っておくことが、今後の女性が活躍できる社会づくりにつながっていくのです。

Q. 妊娠、出産によって離職せざるを得ない女性もまだまだ少なくありません。男性にも子育てへの考え方や姿勢が問われる中、今求められる本当の「働き方改革」とはどんなものでしょうか。

A. 女性活躍というと女性の働き方改革ばかりに焦点が当てられがちですが、男性の働き方改革なくして女性は活躍できないと思っています。というのも男性が家庭に入ることが、男女が平等に活躍する上では必要不可欠であると思うからです。実際に我が家では夫も育児を手伝ってくれています。QOL（人生の質）を向上させるための働き方をめざさないと、真の働き方改革というのは達成されないと思います。子育てもそうですが、自分のための時間というもの、今までキャリアを優先してきた人は二の次三の次にしてしまいがちですが、自分のための時間を有意義に過ごすことを意識することで働き方は必ず変わってくるので、子育てに関しては、パートナーの手を借りるということも選択肢としてしっかり考えるべきです。そこから真の働き方改革というものが見えてくるとと思っています。

Q. ありがとうございました。最後に、福山市民へメッセージをお願いします。

A. 人生とは、年齢・性差問わず、いつでもどこでも何度でもチャレンジできるものです。一度きりの人生、自分の気持ちに正直に果敢に挑戦し、QOLを高め、豊かな人生を送って下さい。

福山市男女共同参画推進員に聞く 第3弾

男女共同参画推進員：西田 三佳子さん
出前講座名：子育ての男女協働とはどんなこと？
～妊娠期からみんなで考えてみよう～



Q男女共同参画推進員になったきっかけは

人材育成セミナーの講師である正保先生を知っていたので、講義を受けたいと思いました。また、助産院を経営する中で、子育ては、お母さんだけでなく、パートナーや周りとの関係が大切になってくるので、男女平等についてどのようなものか学びたいと思っていました。産後のケアを中心に行っているのに、男性の育休があっても取得しにくい状況や、働き方についても来院者に伝えるために、自分が学んでおきたいとの思いが強く、講座をすることになるとは思っていませんでした。

Q講座のアピールを

Q講座を通じて伝えたいことを教えてください

昔と今では子育ての方法も変化し、世代間にズレがあるので、子育て世代、祖父母世代がお互いに理解をする必要があります。また、男女間でもズレがあり、妻が中心となり子育てを担うことが多いですが、夫の協力は必要です。夫にどう主体的に子育てをしてもらうか、妻の理想と現実のズレを軽減し、周りを巻き込んで子育てを楽しんでもらいたいです。

子育ては、1人だけでは難しい部分があるので、周りの協力体制や否定されない社会になることを願っています。

産後クライシス（産後急激に夫婦仲が悪くなる現象）がテーマなので、妊娠中の方やパートナーと一緒に参加することを想定していますが、各世代ごとに知っていただきたい内容も盛り込んでいます。育児中の人、祖父母世代のグループにも聞いていただければ嬉しいです。

お互いを思いやり、みんなで育児を楽しむヒントとしてください。

福山市男女共同参画推進員出前講座のご案内

イコールふくやまでは、個性と能力が活かされる男女共同参画社会の実現をめざし、出前講座を行っています。人材育成セミナー「男女共同参画推進員養成講座」を受講して合格された20人が、福山市男女共同参画推進員として登録され、企業や地域に出向いて活動しています。本年4月より「ワーク・ライフ・バランス～分担表づくりから見える私の時間～」、「子育ての男女協働とはどんなこと？～妊娠期からみんなで考えてみよう～」、「子どもも大人も高齢者も！男女みんなで笑って『健幸』づくり」の3講座が追加され、全部で19講座を行っています。10人以上のグループであれば受講できますので、お気軽にご連絡ください。

問い合わせ・申込先：福山市男女共同参画センター

電話：084-973-8895



お知らせ

※7月22日より、「人形劇「私もあなたも大切に）」と「人形劇を通してDVを学ぼう」の2講座を当面の間休止しております。



～「一人で悩まないで！」～

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、日常生活は一変し、経済不安も高まっています。

災害後や不穏な社会情勢になると、DVは、増加し深刻化すると言われており、国連の事務総長も、世界的なDVの急増に警鐘をならしています。

被害者は、「世の中がこんな大変な時に、こんなことで不満を言うなんてわがままで」「自分が我慢すれば大丈夫」と思い一人で耐えているかもしれません。

ステイホームで、加害者が家にいる時間が長くなると、加害者の顔色を見ながら暮らしている被害者の緊張は高まります。

加害者は、自分の不安やイライラを募らせ、ちょっとしたことで怒りを爆発させたり、何か自分がうまくいかないことを被害者のせいにしたり、細かいことをチェックして支配したりします。

見えにくい夫婦間の性暴力も沢山起きています。

加害者の束縛で、被害者は自由を奪われ、相談する事も出来ないかもしれません。DVを背景に、児童虐待も増加します。

家庭の中で起こる暴力は、身体的暴力がなくても、ピリピリとした空気感が子どもに伝わります。

子どもたちは、学校が休みだったり、家庭の外へ出る機会がないと、逃げ場を失くし、助けを求められず、怖いと思ってもじっと耐えるしかなくなります。

孤立する家庭の中の暴力は、とても気付きにくいものになってしまいます。

DVや虐待において、人と比べて「自分はまだまだ」とか「これくらい大したことない」と被害を過少評価することは危険です。「傷つき」や「しんどさ」は人それぞれで、比べられるものではありません。「傷つき」「しんどさ」を放っておくと、ヒタヒタと心身をむしばんでしまいます。

相談することは、勇気のいることです。もし、ご自分の周りで、DVや面談DVの被害が起きていることに気付いたら、是非、「相談できるところがあるよ」と声をかけてあげてください。一緒に、お越しいただいても良いです。

「イコールふくやま」では、相談者さんに寄り添い、安全・安心な相談場所になるよう心掛け、相談員がお待ちしております。



イコールふくやま相談のご案内

DV（配偶者・恋人などからの暴力）夫婦関係、離婚、セクハラ、性別による差別などの相談を受けます。相談員があなたの悩みに寄り添い、ともに考え、あなた自身で解決するための糸口をともに探ります。必要に応じて、公的制度の利用などについての情報提供や紹介もおこないます。

※プライバシーは厳守します。

平日相談（要予約） 084-973-8896 電話相談・面接相談	月曜日から金曜日	午前 10 時 ～ 午後 5 時
土・日曜相談（要予約） 084-923-9638 電話相談・面接相談	土曜日・日曜日 （祝日は除く）	午後 1 時 ～ 午後 5 時

※ 相談は、ご予約をさせていただいても、少しお待ちいただく場合がありますので、ご了承ください。

【お問い合わせ・ご予約】

相談予約電話番号 084 - 973 - 8896

※相談予約は上記平日相談の時間内をお願いします。（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く）

BOOK GUIDE

イマドキ女性管理職の働き方 仕事も人生も自分らしく

麓 幸子 日経BP
なぜ共働きも専業主婦もしんどいのか 主婦がいないと回らない構造

中野 円佳 PHP研究所
産業医が診る働き方改革
産業医科大学 西日本新聞社
日本の天井 時代を変えた「第一号」の女たち

石井 妙子 KADOKAWA
女子の選択
橘木 俊詔 東洋経済新報社

貧困専業主婦

周 燕飛 新潮社
WOMEN女性たちの世界史大図鑑
ホーリー・ハールバート 河出書房新社
#KUT00 靴から考える本気のフェミニズム
石川 優実 現代書館
パパ離乳食はじめます。

本田 よう一 女子栄養大学出版部
いつまで続く「女人禁制」 排除と差別の日本社会をたどる
源 淳子 解放出版社
フィンランド人はなぜ午後4時に仕事が終わるのか
堀内 都喜子 ポプラ社

進化形態はイクメン 「子育てする父親」が家族と人類を救った

アンナ・メイチン 光文社
主婦をサラリーマンにたとえたら想像以上にヤバくなった件

河内 瞬 主婦の友社
女に生まれてモヤってる！ 本当は「自分らしく」ただいだけなのに
ジェーン・スー／中野 信子 小学館
上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください！
上野 千鶴子 大和書房

中央図書館 ☎932-7222
松永図書館 ☎933-3770
北部図書館 ☎976-4822

東部図書館 ☎940-2575
沼隈図書館 ☎987-5630
新市図書館 ☎(0847)52-5551

かなべ図書館 ☎962-5053

「男女共同参画施策との関り」

今年3月の段階では、定年退職まで残り1年で異動とは無縁とと思っていましたが、今年度から業務経験のないスポーツ・青少年女性担当部長となり、右も左もわからない状態で、悪戦苦闘の毎日を過ごしています。

職員をはじめ関係者の皆様にとっては、「今更？」・「そんなこと？」など疑問符の付く質問を繰り返しているのだろうと思います。

私自身も、専門知識や業務経験がない者が、皆さんに迷惑をかけながら、何故、この仕事をしているのか、自分の果たすべき役割は何なのか、毎日、自問自答してきましたが、最近、一つだけわかった気がしています。

それは、市民感覚に近い未経験者の私から見たときの不思議・疑問が、経験の長い皆さんには「今更？」や「そんなこと？」になっているのではないかと。

簡単に言えば、何年も継続されている事務・事業は、慣例の

とあり実施するのが当たり前という概念や先入観から、時代や市民感情、生活様式等の変化に対して鈍感になり、いつのまにか市民感覚から乖離した事務・事業になっているのでは。

そして、そのことに気づくためには、敢えて専門知識や業務経験の無い者が必要だったのではないかとということです。

まさに今、コロナ禍という大きな災いに対応するため、政府からは新たな生活様式が提唱されるなど、社会・経済活動は大きな転換期を迎えており、業務の在り方や各種事務事業の実施方法等については、見直しが必要となっています。

三密などのコロナ対策のみではなく、既成概念にとらわれずに、時代や市民感覚にマッチした効果的な事務事業の改善に、関係者全員が一丸となって取り組みましょう。私も微力ながら皆さんと一緒に取り組みます。

スポーツ・青少年女性担当部長 矢野

福山市男女共同参画センター

イコールふくやま

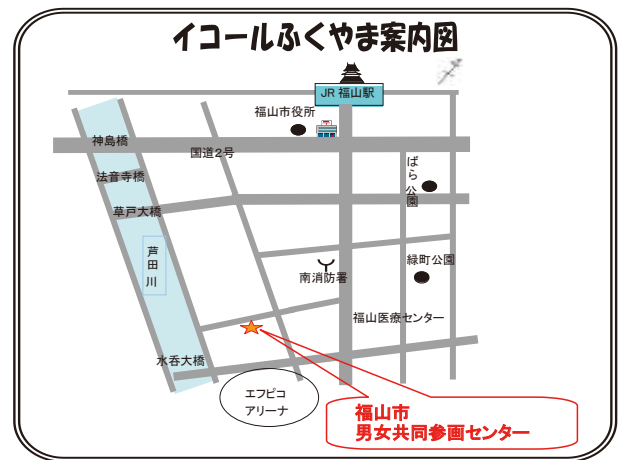
〒720-0831

福山市草戸町五丁目12番3号

- 休館日／祝日・年末年始（12月29日～1月3日）
- 開館時間／午前8時30分～午後5時15分
（ただし土・日は午後1時～午後5時）
- 電話／084-973-8895
- 相談／084-973-8896
- FAX／084-927-9121



ご来館は、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。



バス

福山駅前4番のりば

- * 古地経由多治米車庫前行→総合体育館北下車
- * 田中橋経由多治米車庫前行→エフビコアリーナふくやま下車後徒歩約2分
- * 箕島行→五本松下車→五本松下車後徒歩約3分

- * 五本松経由多治米車庫前行→エフビコアリーナふくやま下車後徒歩約2分
- * 西川口経由多治米車庫前行→五本松下車後徒歩約3分
- * 箕島経由箕沖行→五本松下車→五本松下車後徒歩約3分